

鳥取県中山間地域を支える水田農業支援事業実施要領

第1 目的

県内の中山間地域(鳥取県みんなで取り組む中山間地域振興条例(平成20年鳥取県条例第63号)第2条第1項で定める中山間地域をいう。以下「中山間地域」という。)を中心に、認定農業者(農業経営基盤強化促進法(昭和55年法律第65号)第12条第1項の規定に基づき市町村の認定を受けた者をいう。以下同じ。)ではないが、小規模な集落単位等で地域の水田農業を支えている農業者が数多く見られるところであり、県は、そのような中山間地域で水田農業を支える農業者を育成するとともに、地域の水田農業の維持・発展を図ることを目的とする。

第2 定義

1 地域

この要領において「地域」とは、地縁のある1から数集落までの範囲とする。

2 基幹的農作業

この要領において「基幹的農作業」とは、水田の耕起、代かき又は整地、田植え又は播種、病害虫防除、収穫、乾燥・調製等の農作業とする。

3 対象水田面積

この要領において「対象水田面積」とは、実施主体が、農業経営(一部の基幹的農作業に係る農業用機械の利用又は受託作業を行うものを除く。以下同じ。)又は基幹的農作業のうち1種類以上に係る農業用機械の利用又は受託作業を行う地域の水田の合計面積とする。

4 集積水田面積

この要領において「集積水田面積」とは、実施主体が、農業経営又は基幹的農作業のうち1種類以上に係る農業用機械の利用又は受託作業を行う水田の合計面積とする。

5 集積率

この要領において「集積率」とは、「集積水田面積」を「対象水田面積」で除した割合とする。

6 経営集積率

この要領において「経営集積率」とは、「実施主体が、農業経営を行う水田の合計面積」を「対象水田面積」で除した割合とする。

7 人・農地プラン

この要領において「人・農地プラン」とは、人・農地問題解決加速化支援事業実施要綱(平成24年2月8日付23経営第2955号農林水産事務次官依命通知)第2に規定する人・農地プランで、対象水田面積の範囲の人・農地プランとする。

8 集落営農組織

この要領において「集落営農組織」とは、地域の水田で農業経営又は基幹的農作業に係る農業用機械の共同利用又は委託を受けて農作業を行い、また、人・農地プランにおいて地域の中心となる経営体として位置付けられている又は位置付けられることが確実な組織であって、組織の運営に関する規約を定めている又は定めることが確実な組織とする。

第3 実施主体

本事業の実施主体は、人・農地プランにおいて地域の中心となる経営体として位置付けられている個人農業者(認定農業者、集落営農組織、集落営農組織の構成員又は認定新規就農者(農業経営基盤強化促進法(昭和55年法律第65号)第14条の4第1項の規定に基づき市町村の認定を受けた者をいう。)を除く。以下同じ。)とする。ただし、市町村長が同意した概ね3者以内の個人農業者(同一市町村在住者に限る。)の共同体も実施主体とする。

第4 事業の要件

本事業の要件は、(1)から(4)まですべての項目を満たすものとする。

(1) 地域で農業経営又は基幹的農作業を行う水田が中山間地域内にあること。

- (2) 地域内農業者等による合意形成がなされ、実施主体が在住する市町村長が認めた、集落営農組織化又は認定農業者を目指した事業活用であること。
- (3) 申請時の農業経営を行う水田の面積（市町村長が同意した概ね3者以内の個人農業者の共同体的場合は合計面積）が概ね2.5ヘクタール以上であること。又は、経営集積率が概ね25パーセント以上であること。
- (4) 特定高性能農業機械（コンバイン等）の導入に当たっては、農業経営又は基幹的農作業を行う水田の目標面積が、特定高性能農業機械導入計画書に定めた利用規模の下限を概ね満たすよう努め、その他の機械の導入に当たっても、概ね作業面積等に沿った能力の機械とし、過剰となるような機械導入を排除した利用計画であること。

第5 支援内容等

本事業の支援内容等は、下記のとおりとする。

- (1) 水田農業の維持・発展に必要な農業用機械（軽トラック等の汎用性がある車両を除く。）の導入等を行うことができるものとする。ただし、単なる機械の更新等、現状維持にとどまるもの及び土地基盤の整備に関するものは除く。
納入等その選定に当たっては、鳥取県産業振興条例(平成23年12月鳥取県条例第68号)の趣旨を踏まえ、県内事業者への発注に努めなければならない。
- (2) 本事業の活用は、1実施主体につき1回限りとする。

第6 事業実施計画

事業実施計画に係る提出書類は、下記のとおりとする。

- (1) 実施主体は、事業開始年度から4年度末時点までの事業実施計画を別紙様式1により策定するものとする。
- (2) 実施主体が実施要領第3ただし書きの場合にあつては、実施主体は、前号の計画に別紙様式2を添付するものとする。
- (3) 市町村長は、前2号の書面を実施主体から提出させる補助金交付申請書に添付して提出させるものとする。

第7 事業実施実績の報告

事業実施実績の報告は、下記のとおりとする。

- (1) 実施主体は、申請書に掲げた目標3年度分に対する機械の利用実績を、別紙様式3により、申請書に掲げる目標最終年度の翌年度5月31日までに市町村長へ報告するものとする。
- (2) (1)の報告を受けた市町村長は、報告書の内容を点検し、適当と認めた場合は、受理した報告書の写しを、提出のあった年度の7月31日までに、所管の地方事務所（東部農林事務所、東部農林事務所八頭事務所、中部総合事務所、西部総合事務所及び西部総合事務所日野振興センターをいう。以下「地方事務所」という。）の長に提出するものとする。
- (3) 地方事務所の長は、(2)の提出を受けた場合は、その内容について点検し、申請書に掲げた目標と著しく乖離するときは、当該実施主体に対して必要な指導を行うとともに、改善に向けた取組を検討するものとする。
- (4) 地方事務所の長は、(3)による点検等を終えた場合は、その内容（第7の(2)により提出された報告書の写しを添付）を農林水産部長に報告するものとする。

第8 その他

この要領に定めるもののほか、本事業の実施に必要な事項は別に定めるものとする。

附 則

この要領は、平成28年3月11日から施行する。

附 則

この要領は、平成28年6月17日から施行する。

中山間地域を支える水田農業支援事業実施計画書

申請年月日 平成 年 月 日

申請年度	市町村名	事業実施主体名	事業実施計画年度
年度			年度～ 年度

1 実施主体の取組計画

(1) 集積（農業経営及び作業受託）の計画

【取組地区名： 地区（及び 地区）】

項 目	申請時 (年度)	2年度末時点 (年度)	3年度末時点 (年度)	4年度末時点 (年度)
集積水田面積 A <u>申請時の欄は、農業経営を行う 水田の合計面積を記載</u>	ha	ha	ha	ha
対象水田面積 B	ha	ha	ha	ha
集 積 率 A/B <u>申請時の欄は経営集積率を記載</u>	%	%	%	%

(2) 機械の稼働計画

項 目	申請時 (年度)	2年度末時点 (年度)	3年度末時点 (年度)	4年度末時点 (年度)
集積水田面積 A <u>申請時の欄は、農業経営を行う 水田の合計面積を記載</u>	ha	ha	ha	ha
導入機械の利用規模 C (利用規模の下限を記載)	ha	ha	ha	ha
稼働計画 A/C	—	%	%	%

(3) 目指す方向（該当するものに○を記載）

集落営農組織化を目指した事業活用 ・ 認定農業者を目指した事業活用

2 計画に対する取組内容（地域の合意形成の取組等）

※地域の合意形成がなされた議事録等の写しを添付すること。

※本計画書と地域の合意形成がなされた議事録等の写しは、交付申請時に添付すること。

中山間地域を支える水田農業支援事業 取組共同体の概要

作成年月日 平成 年 月 日

市町村名		代表者氏名	
------	--	-------	--

1 農業経営（水田）の概要

氏 名	在住地区名	農業経営を行う 水田の合計面積
(代表者)		ha
(共同者)		ha
合計		ha

※共同者は1名ずつ記載すること。

2 機械導入による取組の概要（共同体内での役割分担、地区分担等の詳細）

中山間地域を支える水田農業支援事業実施実績報告書

報告年月日 平成 年 月 日

報告年度	市町村名	事業実施主体名	事業実施実績年度	
年度			年度～	年度

1 実施主体の取組実績

(1) 集積（農業経営及び作業受託）の実績

【取組地区名： 地区（及び 地区）】

項 目	申請時 (年度)	2年度末時点 (年度)	3年度末時点 (年度)	4年度末時点 (年度)
集積水田面積 A <u>申請時の欄は、農業経営を行う 水田の合計面積を記載</u>	ha	ha	ha	ha
対象水田面積 B	ha	ha	ha	ha
集 積 率 A/B <u>申請時の欄は経営集積率を記載</u>	%	%	%	%

(2) 機械の稼働実績

項 目	申請時 (年度)	2年度末時点 (年度)	3年度末時点 (年度)	4年度末時点 (年度)
集積水田面積 A <u>申請時の欄は、農業経営を行う 水田の合計面積を記載</u>	ha	ha	ha	ha
導入機械の利用規模 C (利用規模の下限を記載)	ha	ha	ha	ha
稼働実績 A/C	—	%	%	%

2 成果と課題